

---

# 黄巾の旗は二度翻る

砕け散る檸檬果汁

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黄巾の旗は二度翻る

### 【Nコード】

N7245X

### 【作者名】

砕け散る檸檬果汁

### 【あらすじ】

後漢末期。黄巾党による反乱は後の世に名を連ねる英雄たちの手によって失敗に終わった。男は現実から目を反らすため再び立ち上がる。その果てにあるのは復讐か破滅なのか、それとも平穏なのか……

## プロローグ ある男の末路

辺りは血の臭いで充満しており、口の中では砂と血の味が混ざり合い、土と鉄の味がする。

辛うじて映る視界には永遠に続くかと思われるような死体の草原が広がっており、所々では火の手も上がり、たとえ誰かがこの場所を地獄と言ったとしても誰も疑わないだろう。

このような場所で地面に伏しながらも辛うじて意識を保っていた、この男は不幸なのかもしれない。

ほんの数刻前まで黄色に染まっていた大地は今や変わり果て、赤一色となっていた。

男の倒れている地面も例外なく赤く染まっており、その色の持ち主が男のモノなのかは本人にすら分からない。

ただひとつ分かることは、程なくしてこの男も周りに転がる肉塊と変わらなくなるだろうということぐらいだった。

それでも男は死を嘆くわけでもなく、ましてや悲しむわけでもなかった。

ただただ憤懣で溢れていた。

なぜ自分は死んでしまうのか、誰のせいで死んでしまうのか。

原因を作った者を恨み、仕向けた者に怒り、殺した奴らを憎む。

そして……このような一片の救いすら無い最後を迎える自分に絶望した。

その時、視界の隅で何かが動いていた。

陽の光が作り出した二本の長い影が男の顔に被さる。

二人の人物はどうやら話しているらしく声らしきものは聞こえるのだが内容までは分からないが、声からして男であることは予測でき

た。

辛うじて見える限りの状況から推測して二人は地面に転がっている死体を一つずつ何やら確かめているらしい。

どうせ、せこい盗賊が死体の身ぐるみでも剥ぎにきたのだろつかと思っっていると、どうやら男の番がきたらしく声の主と思わしき人物達が男の傍らに佇んでいた。

そのうち片方は年端も行かない少年の姿をしており、もう一人の男は線の細い体をしており神経質そうな目つきをした眼鏡をかけた男だった。

傍らに佇む二人はなんとも奇抜な格好をしており、そのあたりの盗賊とは思えなかった。

「しかし死体を弄繰り回すとは相変わらず悪趣味なやつだな」

「そのように嫌そうな顔をするのならば別について来なくても良いのですよ?」

「お前を放っておくと何を為出かすか分からないからな」

「左慈さんには言われたくないですが……でも残念ながら今回は死体を弄らなくてもよさそうですよ」

眼鏡の男は口角をニツと上げると地面に倒れ伏している男を見た。

「今日この日に私たちが生きて出会えたことは、なんと幸運なことなのでしょうね」

眼鏡の男は芝居がかった大仰な言葉を吐くと男に手を差し出す。

「このような地獄を作った者達に復讐をしましょう。奴らに同じ地

獄を味合わせてあげましょう。そのための手助けを私が致しまし  
う」

眼鏡の男は慈悲深い笑みを浮かべながら地面に倒れ伏す男を物の値  
踏みをするような目で見つめる。

その姿はか弱い子供を攫おうと手を伸ばす鬼のように男の目には映  
った。

だが、男は一瞬の躊躇すらなく眼鏡の男の手を掴んだ。

ただ一時でもこの地獄から目を反らすことができるのであればと願  
いながら。

「ふふ、私を楽しませてくださいよ」

楽しそうに笑う眼鏡の男とは対照的に左慈と呼ばれた少年は、いか  
にも面倒臭そうな顔をしている。

だが、そんな様子など気にもしないのか眼鏡の男は一頻り笑うと男  
を軽々と担ぐと、地獄に一陣の風が吹いた。

砂埃を空に巻き上げながら突風は血の匂いと生者をどこかへと連れ  
ていった。

突風が止んだとき地獄からは一人残さず生者は消え去った。

## プロローグ ある男の末路（後書き）

初めての小説ということまで至らない部分も多くありますが、どうかよろしくお願いします。

基本は2週間に1話ぐらいのペースでかけたらいいなと思っています。

誤字脱字などを発見して下さいましたら報告などをしていただけると嬉しいです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7245x/>

---

黄巾の旗は二度翻る

2011年10月19日08時18分発行